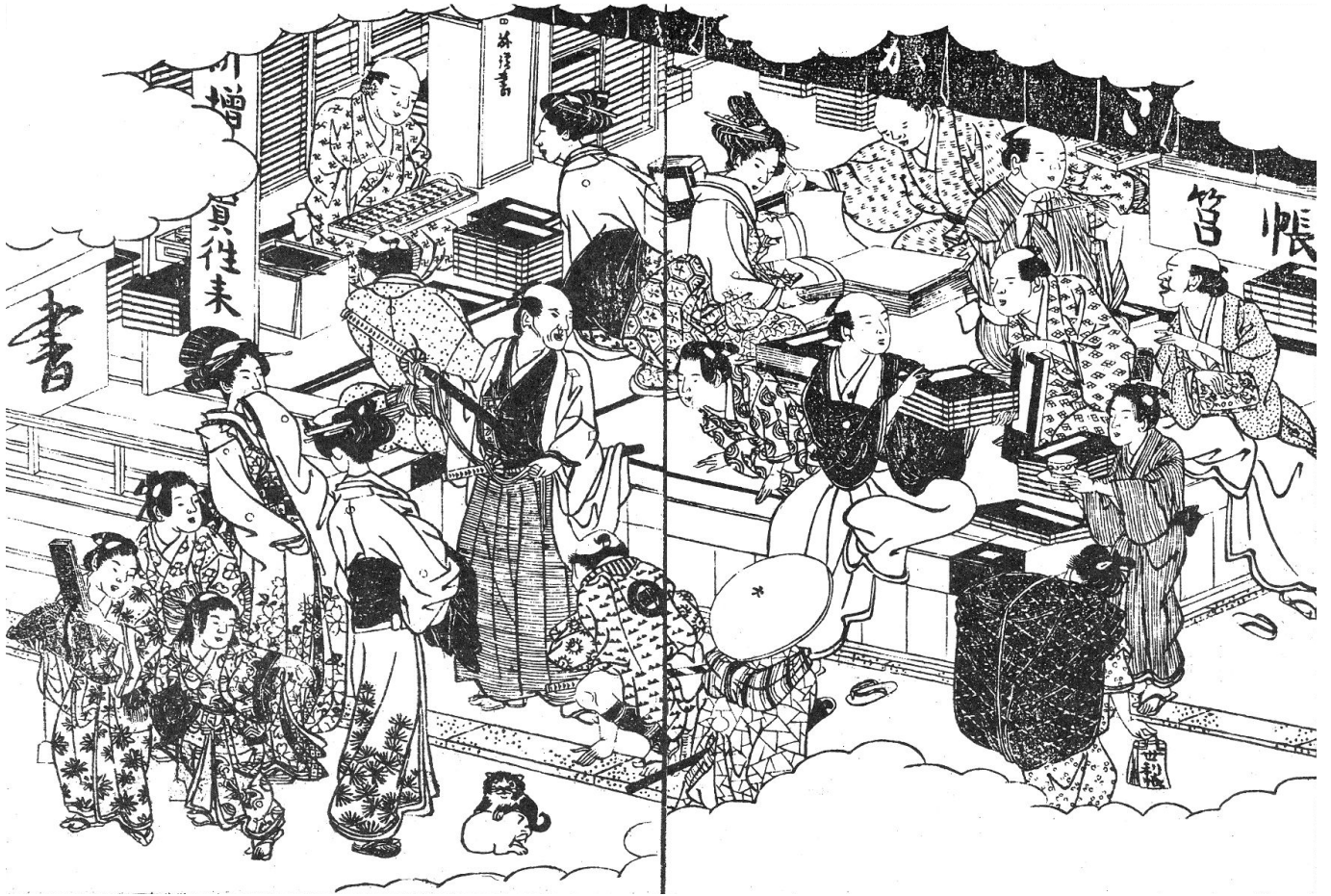


販わう本屋、女性客の目当ては？



■文化12年(1815)『日用商売往来』

百首歌、100という数字の意味

【小倉百人一首】

- 撰者＝藤原定家(1162-1241, 80歳) → 「和歌の神様」。生涯に4500首以上。
- 成立＝鎌倉前期。*『明月記』の文暦2年(1235)5月27日の記録 → 原型の百首歌が成立。
- 2つの百首歌＝「百人秀歌」が先か、「百人一首」が先か、あるいは区別がなかったのか。秀歌が一部異なる。
- 現存最古の「百人一首」＝応永13年(1406)奥書の古写本(宮内庁) → 成立後200年間の空白。私的な撰歌の可能性。
- 自由闊達、私的な秀歌撰。定家の嗜好・思想・個性を色濃く反映 → 定家研究の基本資料。

『百人一首』以外に、「〇人〇首」はあったか？

- 百首歌 → 100人×1首 or 1人×100首 *本来は「百人百首」では？
- 『五十人一首(教訓名歌集)』(邨井正宣編、寛政5年刊)刊行の趣旨
 - ①読みやすく、暗誦しやすい
 - ②戯れの記憶でも、大人になってから役立つ
 - ③側で聞いている父兄にも有益

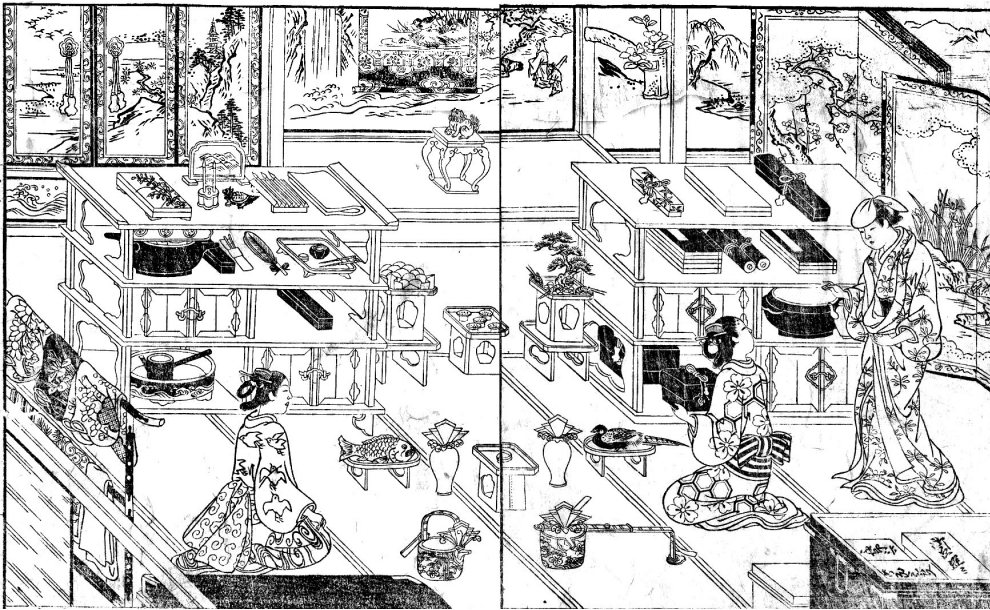
3大女子用往来（読み書き教材）

○出版点数から（合計約3000点）→ ①百人一首 1200点（40%） ②女今川 230点（8%） ③女大学 150点（5%）

○使用状況から *乙竹岩造による大正4～6年の調査（3090人回答）
 【習字用 738点】→ ①女大学 31位 ②百人一首 43位 ③女今川 46位
 【読書用 652点】→ ①女大学 13位 ②百人一首 14位 ③女今川 15位

○「百人一首」の学習法その他 *乙竹調査
 【東京の例】→ 円座になり一句ずつ輪読して誦誦
 【三重の例】→ 「女は珠算より百人一首を学べ」と言われたが、成人後、商家に嫁いで算盤ができず苦労

書籍としての百人一首

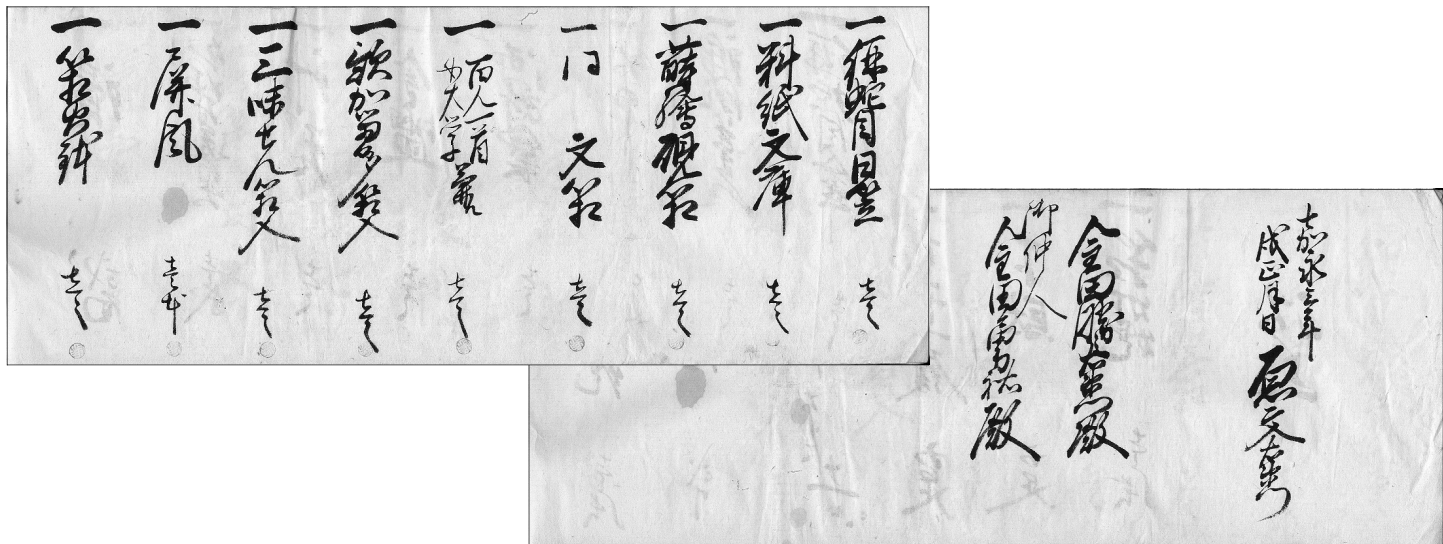


■宝暦13年（1763）『女今川姫鏡』（西川祐信画）

- 挿絵の道具類
- 【左＝御厨子】
- 一之棚＝硯箱・硯屏・筆立・文鎮・奉書等
 - 二之棚＝お歯黒道具・香道具
 - 三之棚＝筆台、扉内に短冊・文
 - 四之棚＝薫物道具、扉内に双紙類
- 【右＝黒棚】
- 一之棚＝短冊箱・硯箱・文箱・長文箱
 - 二之棚＝歌書（古今集・万葉集）
 - 三之棚＝角罎・水差、扉内に書物
 - 四之棚＝元結箱・五倍子箱・歯黒箱

- 寛延3年『婚礼仕用壘栗袋』 *農工商向け婚礼書
- ・小袖類（小袖・帷子・袴・寝具等）30点
 - ・懐中之品（匂袋・鼻紙・楊枝・印籠等）6点
 - ・紙類（色紙・短冊・半紙・奉書・巻紙等）10点
 - ・手道具類（楽器・文具・裁縫用具等）44点
 - ・本類（百人一首・物語・歌書・双六等）15点
 - ・客道具（茶碗・盃・盆・枕箱・見台等）19点
 - ・荒道具類（桃燈・罎・傘・雪駄・下駄等）11点
 - ・道具類（御厨子・黒棚・貝桶・屏風等）12点
- 以上合計147点

○紀州那賀郡西坂本村（現・岩出市）金田勝之右衛門宛て文書（嘉永3年（1850）1月、原文右衛門娘もんの婚礼道具目録）
 ・合計148点中に、書籍『百人一首・女大学』1点と「歌かるた」1点を含む。





■女教訓読書本目録(安永7年(1778)『女今川教文』)

<p>女庭訓所文集 二冊</p> <p>女中庸馮鑑 一冊</p> <p>女今川教文 一冊</p> <p>女用玉手箱 一冊</p> <p>女七宝標庫 一冊</p> <p>女教誨法袋 一冊</p> <p>女學別 一冊</p>	<p>女文章寶箱 一冊</p> <p>女用智惠監 一冊</p> <p>女文選料紙箱 一冊</p> <p>女文章後綿 一冊</p> <p>女用文章車 一冊</p> <p>女用文章後綿 一冊</p> <p>女用教誨寶鑑 一冊</p> <p>女童子佳末 一冊</p>	<p>女文章寶箱 一冊</p> <p>女用智惠監 一冊</p> <p>女文選料紙箱 一冊</p> <p>女文章後綿 一冊</p> <p>女用文章車 一冊</p> <p>女用文章後綿 一冊</p> <p>女用教誨寶鑑 一冊</p> <p>女童子佳末 一冊</p>	<p>女中の見給ひて益有書物目録</p> <p>女文章寶箱 一冊</p> <p>女用智惠監 一冊</p> <p>女文選料紙箱 一冊</p> <p>女文章後綿 一冊</p> <p>女用文章車 一冊</p> <p>女用文章後綿 一冊</p> <p>女用教誨寶鑑 一冊</p> <p>女童子佳末 一冊</p>
--	--	--	---

■女中の見給ひて益有書物目録(文政12年(1829)『女大学宝箱』) * 32点の書籍の約半分が百人一首

百人一首かるた（歌がるた）



■嘉永4年(1851)『女大学操鑑』(英琳画)



■安政2年(1855)『女今川操鑑』



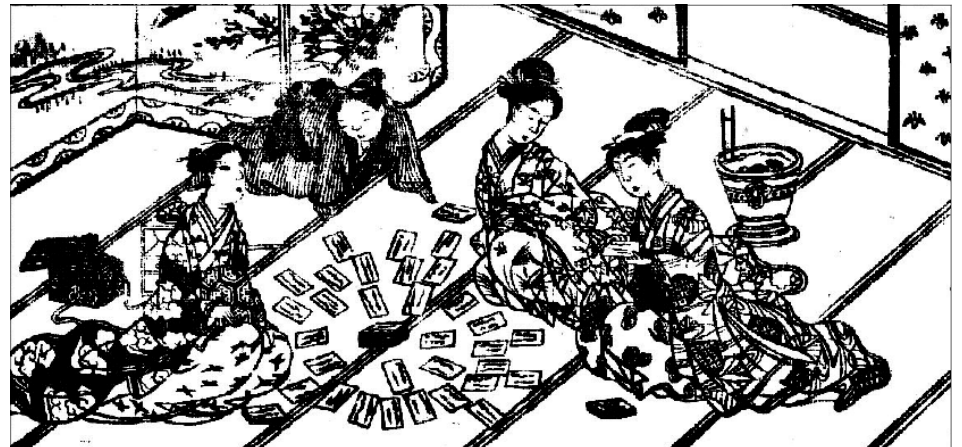
■宝暦12年(1762)『女節用文字囊』



■寛政3年(1791)『操大全玉文庫』



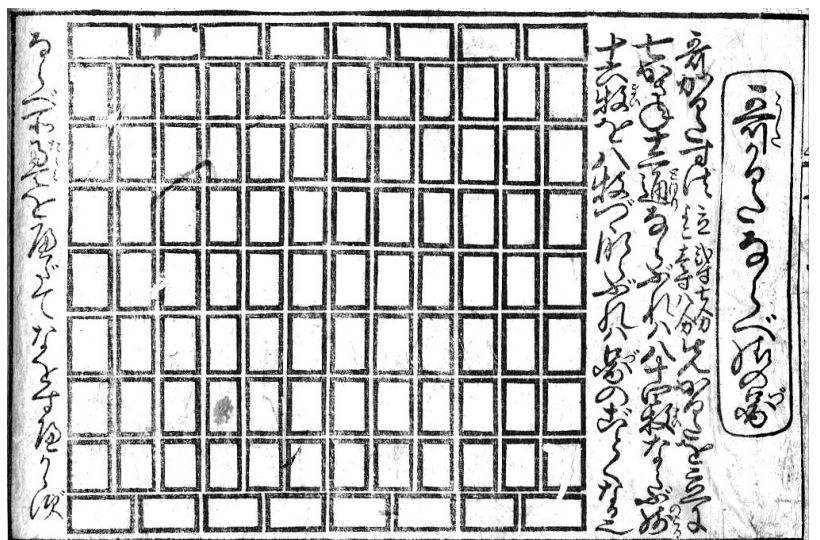
■天明5年(1785)『百人一首都大全』



■文政2年(1819)『女教和歌海』



■文化14年(1817)『女今川姫小松』



■享保6年(1721)『女要珠文章』



■安永9年(1780)『娘教訓和歌百首』*上



■文政5年(1822)『女今川園生竹(女古状揃園生竹)』(高井蘭山編)*下

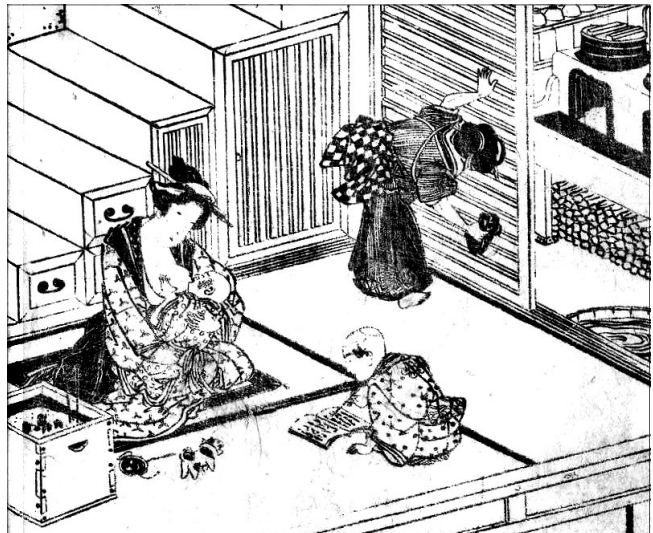
○慰みに する物なれど つい松の
 対より外に 合わぬ戒め
 松明(続松)・貝合わせは、一対よりはいかようにしても合わせ
 難く候。女は一生一人の殿御よりほか御持ちなされぬ戒め、幼きよ
 り御しらせ申すように持え申し候物に候えば、これは良き御もてあ
 そびにて御座候。

○歌合わせ 貝覆いをも まんがちに
 たんと取るのは 結句卑しし
 貝合わせ・歌がるたは、娘子の良き御遊びに御座候。これとても、
 わが手元にある候を静やかに御取りなされ候物にて御座候。まんが
 ちに向こうにあるを御覧なされ候いて、結句手元にあるを、ほかへ
 御取られなされ候。たとえ数多く御取り候とも、手柄にはなり申さ
 ぬ事に御座候。やさしくなされ候が、よろしかるべく候。





■安永8年(1779)『女前訓躰種』(手島堵庵作)



■天保5年(1834)『操百人一首倭鑑』(池田東籬亭編)



■安永5年(1776)『女教大全姫文庫』



■嘉永4年(1851)『女伝心鈔』

全10回シリーズの小冊子で刊行された変わり種『〈早解〉百人一首往来』

〈早解〉百人一首往来

【作者】宝田千町作・序。

【年代】天保5-7年(1834-36)刊。〔江戸〕山口屋藤兵衛板。

【概要】中本10巻10冊(後10巻合1冊)。従来の注釈書を参酌しつつも独自の注を加えた『百人一首』の童蒙用注釈書。天保5年刊『家宝往来』広告に、「世に百人一首のこうしやく本多しといへ共、此書はそれとことかはり、常の往来ものごとく大字に書とり、雅言・古語を用ひずして婦人・子どもしゆにも早わかりすることく、かきほどきたる書」と紹介する。一方「只、直を廉にして求め安く、解し安からしめんが為」に中本仕立てとし、各巻に10首ずつ紹介する。歌仙絵を省き、冒頭からいきなり注釈に入り、最後に「秋の田のかりほの庵の苫をあらみ、我衣手はつゆに濡つ」と読せられたる、難有御歌也」のように和歌全体を示して結ぶ。注釈文・和歌ともやや小字・6行・付訓で綴り、第1巻(輯)巻頭に「和歌の徳」に関する記事を載せるほかは付録記事や挿絵は一切ない。このように、本書は通常の『百人一首』とは趣向の異なる往来である。後印の10巻1冊合綴本には、口絵に玉蘭斎貞秀筆「定家卿、小倉の山莊時雨亭の図」が増補されたほか、各巻の継ぎ目などに部分的改編がなされた。なお、題簽角書の「早解」は「はやわかり」と読む。



参考：百人一首（往来物）の出版状況と価格

●女子用往来と往来型百人一首の出版点数

年代		女子用往来	百人一首	年代別合計
17世紀前半	慶長～慶安(1596～1651)	56年 14(0.3/年) 74%	5(0.1/年) 26%	19(0.3/年) 100%
〃 後半	承応～元禄(1652～1703)	52年 76(1.5/年) 68%	35(0.7/年) 32%	111(2.1/年) 100%
18世紀前半	宝永～寛延(1704～1750)	47年 140(3.0/年) 70%	61(1.3/年) 30%	201(4.3/年) 100%
〃 後半	宝暦～寛政(1751～1800)	50年 274(5.5/年) 54%	238(4.8/年) 46%	512(10.2/年) 100%
19世紀前半	享和～嘉永(1801～1853)	53年 443(8.4/年) 58%	326(6.2/年) 42%	769(14.5/年) 100%
〃 後半	安政～明治(1854～1911)	58年 227(3.9/年) 57%	171(2.9/年) 43%	398(6.9/年) 100%
合計		316年 1174(3.7/年) 58%	836(2.6/年) 42%	2010(6.4/年) 100%
無刊年本を含む合計		316年 1861(5.9/年) 61%	1199(3.8/年) 39%	3060(9.7/年) 100%

* 年代別の刊行点数は、『女子用往来刊本総目録』『刊年別一覧』より年代が特定できるものを数えた。

●百人一首の価格

【江戸前期：天和元年書目】	【江戸後期：天保15年・吉野屋仁兵衛蔵板書目】
一、百人一首(定家□) 一匁(≒約1300円)	女要百人一首教袋 63丁 三匁五分
一、同尊円 一匁二分	操百人一首倭鑑 90丁 六匁四分五厘
一、同式部卿 一匁五分	女訓操百人一首(三之道入) 136丁 九匁四分一厘
一、同女筆 三匁	* 女訓三之道 50丁 三匁一分五厘
一、同中本 七分	錦百人一首都織(女今川入) 115丁 八匁三分
一、同小本 五分	錦百人一首(三之道入) 161丁 十一匁
一、同顕図 一匁七分	百人一首相生松 54丁 二匁一分五厘
一、同文十抄(石崎氏) 一匁五分	宝訓百人一首 53丁 ?
一、同首書(浅井松庵) 二匁	倭百人一首 13丁 四分五厘
一、同抄(細川玄旨) 二匁五分	百人一首都錦 62丁 八分二厘五毛
一、同首書抄(貞徳) 四匁五分	
五?、同五巻抄 五匁	
○価格が分かる最初の書目	○売値ではなく製作コスト。これに利益分(1～2割)が加算される
○品質により上中下の3段階で、上記は下の価格	○価格差は、4分5厘から11匁まで、 24倍の開き
○価格差は、5分から5匁まで、 10倍の開き	→ 百人一首以外の往来物では、価格差は 14.6倍
	・最低:七ついろは(8丁) 3分7厘
	・最高:年中用文章(183丁) 5匁4分
	〃:書札調法記(178丁) 5匁4分
	○本書目には、合計270点の書名、うち90点(1/3)が往来物
	→ 往来物には9点(3.3%)の百人一首を含む。